

「新型インフル対応」

新型インフルエンザの患者は相変らず増え、地域も東京にも拡がって来たが、毒性は当初言われた程ではなく、症状も季節性インフルエンザに似ていることから、対策を弾力化することになり、発生地域を拡大状況に応じて二つに分け、患者の急増地域では学校単位で休校できるようにするなど対応を改定することになった(二十二日、新型インフルエンザ対策本部で決定した対応方針)。

対応方針が改定されるようになったことは結構なことである。

旅行の取り止めなどで観光地はもとより、あらゆる方面に、いわば行動ストップのサインがかかったため、ホテル、旅館を始め、泣かされているところが多い。しかも原因が原因とあって、キャンセル料を請求することもできないとあって、関係業界は大迷惑である。

対応の初動が遅かったとは思わないが、いつこういう事態が起こるかも知れないことを念頭において関係行政省庁なども常日頃から対応を考えておかなければならない。

「景気判断と上方修正」

日銀は二十二日の金融政策決定会合で、景気の状態判断をこれまでの「大幅に悪化している」から、「悪化を続けている」に上方修正した。

足元の生産の下げ止まりの兆しがみられるためで、日銀が景気判断を上方修正するのはゼロ金利を解除した〇六年七月以来二年十ヶ月ぶり、政策金利の誘導目標も現在の年〇・一％に据え置くことを政策委員八人の全員一致で決めたという。

日銀は民間への資金供給を加速するために色々な手を打って来たが、今回さらに金融機関が日銀から資金を借りるときの適格担保として米国債などの外国債を加えることを決めた。

私は、日銀が前回にならって市場から株を買入れることも提案しているが、また実行されていない。重ねて要請したい。

「世襲党を作るか？」

自民党の党改革実行本部が世襲候補の立候補制限を導入する方針を決めたという。現にこの方針から言うとうと公認されない人も本人が現職議員であれば適用されないし、又、世襲候補のその該当小選挙区には自民党から立候補を立てず、しかも、それが当選したら自民党入党を認めるというのださうだから、何だかよくわからない。

これぢや、当選しさえすれば文句があるか、ということにもなるし、事実公認しないというようなことになれば、却って、同情票を集めて当選確実になって行くかもしれない。

いずれにしても、今回の世襲禁止の措置は、差別とも言えるし、不合理であるから、早々にこんな改正は思い切るべきである。

世襲がダメなら世襲党でも作るかと浜田防衛相が言ったと伝えている。無論皮肉交じりの冗談であろうが、そんなことでも言ってみたくなる気持は理解できる。

「西川社長を辞めさせるか？」

『続投』か『更迭』か。日本郵政の西川善文社長の進退をめぐる攻防が政界や経済界を巻き込んで激しさを増してきた。再任案を審議する六月下旬の株主総会と最終的な認可権限を有する鳩山総務相の判断が焦点」（以上、東京、五月二十三日朝）。

日本郵政は〇九年三月期連結決算は純利益四二二七億円で、純利益首位のNTTグループ（五三八六億円）に次ぐ規模であった。この成績は世界的な金融不安となった経済情勢のもとではまあまあと見ていいのではないかと思うが、これ一重に西川社長のお陰というものではないにしても、この成績で西川社長の交替を求める理由はないが、と考えている。

五月十八日開かれた指名委員会では西川社長の続投案を決めているが、経済界にも西川は引くべきだ、という意見も強いようであるし、又、鳩山総務相は、かなりハッキリと再任案を拒否する考えを示している。

さて、である。

西川氏が問題とされているのは、例のかんぼの宿をなアなアでオリックスに安く売ったのではないか、ということらしいが、どうも聞いてみると、現在の従業員をそのまま雇用するなどの条件を付けられては、よくぞオリックスはあの金額を提示したという評判もあるようなので、となれば、どうも安く売り過ぎだという批判も当たらないようである。

となれば、ここは、指名委員会の決定どおり西川氏の経営振りを見守った方がベターではないか、と思うが、読者諸賢如何。

「盧前韓国大統領自殺か」

在任中の資金疑惑で捜査を受けていた盧韓国前大統領が二十三日朝自宅近くの山に登り中、転落、死亡したと報じられている。遺書が残されていて自殺の可能性が高いという。

事件の真相は知る由もないが、とにかく韓国では大統領の替る度に前大統領が司直の取調べを受けたり、有罪になったり、釈放されたり、といった事態が少なくない。

何故か。よくわからないが、とにかく選挙や政治がらみで巨額の金が動き、それが、大統領退任後に問題となるケースが多いようである。

原因はよくわからないが、以前韓国の議員から聞いたところでは、とにかく選挙民へのサービスでとんでもない金がかかったら、有力後援者にお返しをしたりが大へんなのだそうで、そういうことも原因なのか、など思ったりする。